

# 構造形態の解析と創生

Analysis and Generation of Structural Shapes and Systems  
- Colloquium 2017 -

## <<開催概要>>

◇開催期日：2017年**10月19日(木)** **20日(金)**

場所：

日本建築学会・建築会館ホール  
(東京都港区芝5-26-20)

主催：

日本建築学会  
構造委員会 シェル・空間構造運営委員会：構造形態創生小委員会  
構造委員会 応用力学運営委員会：構造最適化と設計小委員会

## <<講演論文募集>>

講演論文は、研究論文と技術報告のふたつのカテゴリーに分けてそれぞれ募集します。

- ・研究論文：構造物の形態を創り出すための理論・技術に関わる研究発表を対象とします。
- ・技術報告：構造形態を創り出すための理論・技術を具体的な建築物、プロジェクトなどに応用した事例紹介を対象とします。

既発表のものでも、新たに纏めたものであれば申し込みを受け付けます。構造力学的な手法に限定せず、材料、生産、計画、環境の視点からの構造形態に関するアプローチなど、幅広い内容の発表や企業の方の参加も歓迎します。

◇発表登録 締切：2017年**7月14日(木)** **期間延長!** 2017年**8月24日(木)**

◇論文提出 締切：2017年**9月22日(金)**

## <<特別講演>>

2017年**10月19日(木)** 加藤史郎(豊橋技術科学大学名誉教授)  
館 知宏(東京大学)  
**20日(金)** 三浦公亮(東京大学, JAXA宇宙科学研究所)

## <<形態創生コンテスト2017作品募集>>

◇テーマ：**「温故知新でレガシーとなる構造物を創生する」**

作品は、A3版(横使い)2枚でご提出ください。あわせて、提出作品のPDFファイルをCDなどのメディアに保存して、作品と一緒にご提出ください。

審査委員長：

中田捷夫(株式会社中田捷夫研究室)

審査員：

市川創太(ダブルネガティブスアーキテクチャー、  
都市研究室エイチシーラボ)

大崎 純(京都大学)

佐藤 淳(東京大学)

特別審査員：

加藤史郎(前掲)

館 知宏(前掲)

◇エントリー 締切：2017年**7月14日(木)** **期間延長!** 2017年**8月24日(木)**

◇作品提出 締切：2017年**8月31日(木)**

## <<開催趣旨>>

近年の建築の設計プロセスにおける3D-CADやBIMの利用は、意匠、構造、設備、施工の連携を強め、また、これまで不可能であった複雑な形態の構造物の建設も可能にしました。また、デジタル・ファブリケーションの技術が普及し、建築のデザインに大きな変化を与えています。実現可能な建築表現の自由度が急速に増すなかで、建築物の形態をどのように決定すべきかという問題について、今後更に深く考えていく必要があります。

本コロキウムは2006年度から毎年開催しており、今年で12回目を迎えます。これまでに、構造形態創生、構造最適化、アルゴリズム・デザインといった建築構造物の形態を創り出すための理論・技術に関する研究や、実際のデザインへの応用事例などが数多く紹介され、活発な議論が展開されてきました。これらの理論・技術は一過性のもではなく、本質的なニーズの上に成り立った重要な建設技術であり、新しいコンセプトや最新のアルゴリズムなどを取り入れながら、議論を重ねて今後も発展させていく必要があります。

本年度開催する「第12回 コロキウム構造形態の解析と創生2017」では、これまでと同様に形態創生の理論・技術に関わる研究者、技術者が一堂に会して最新の情報を交換すると同時に、講演論文を研究論文と技術報告のふたつのカテゴリーに分け、理論・技術だけでなく、それらを具体的な建築物、プロジェクトなどに応用した事例紹介についても議論する機会を設けることで、これらの研究・技術分野が益々発展することを期待して開催されます。